

文部科学大臣賞

笑顔レストラン

福岡県 津屋崎小学校 四年

諫元 妃莉

四年生になってもコロナは収まらずに、学級閉さや、休校になることもありました。楽しみにしていた行事もないまま、がまんの日々が続けています。コロナが早く収まってほしいと願っていますが、私にできることはマスクをしたり、手洗い、消毒をすることくらいです。

コロナが収まるために、ワクチン接種が大事だとテレビで見ました。私のお母さんは今、ワクチン接種の受付の仕事をしています。仕事で大変な思いをしていると聞き、コロナが収まるために頑張っているんだなと思いました。

お母さんは毎日とても疲れて帰ってきます。そんなお母さんを応えんしたり、私にできるお手伝いをしてあげたい。それが、コロナが収まるために私ができることだ、と考えました。

「そうだ！ 『笑顔レストラン』を開こう！」

妹と協力しながら、メニュー表を作りました。レストランのメニューには食べ物ではなく、お母さんが楽になるようなお手伝いメニューを書きました。家の玄関にかんばんも作って、じゅんびは完ぺきです。

いつものように疲れて帰ってきたお母さんは、笑顔レストランのかんばんを見てニッコリ。『消毒をお願いします』と書いたポスターを見せて、私は消毒係、妹が検温係になりました。チームワークはばっちりです。お母さんはメニュー表から、洗たく物とお皿かたづけを選びました。いつもはお手伝いをいやがる妹も、「次のご注文はありませんか。」と、レストランの店員になりきって、ウキウキです。次のお手伝いの注文も受けたので、最初は楽しかったけれど、お手伝いは大変でした。終わるたびに、お母さんが「ありがとう」と笑顔になってくれるので、うれしくてパワーがわいてきて、どんどんお手伝いを引き受けたくくなりました。

次の日、お父さんが、「家のかたづけをしてくれてありがとう。」と、ほめてくれました。無口でなかなか笑わないお父さんが笑顔になってくれたので、今でもあのときのうれしさは忘れられません。

いつもがんばっているお母さんに、少しの親切をしてあげるだけで、家族みんなが笑顔になって、私もあたたかい気持ちになりました。やってよかったなあと思います。知らない人に親切にしてあげるのはなかなかむずかしいけれど、お母さんや、おばあちゃん、友達などの周りの知っている人に対してなら、私にも小さな親切ができるかもしれない。私にできる小さな親切を見つけて、親切ができる人になりたいと思いました。

例えば、おばあちゃんの買い物の荷物を持ってあげたり、骨折をしている友達の手助けをしてあげるなど、何をしてあげればその人が楽になるかを考えればいいのかなど、親切のヒントも見つけられました。

これからも、笑顔レストランを開き、私にできる親切を続けることで、家族に親切の輪が広がればいいなとも思いました。そして、早くコロナが収まりますように。